

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年10月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル さくら棟		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	平成 27年 10 月 26 日	評価結果市町村受理日	平成28年 1月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成 27 年 11 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所は医療法人である医療面においては協力体制が整っている。H23年3月に開所し職員一同、入居者様の安全、安心ある暮らしを支援するため、その方の出来る事、出来ないことを見極め、個々の能力に応じ、その方が主役となれるよう支援し、理念に沿ったケアを行い、全体会議や運営推進会議でも意見を頂き、運営している。楽しみである食事の食材は法人の農園で作られた減農薬の新鮮な米、大豆、野菜、根菜類などを提供しています。職員は入居者様の尊厳保持に努め、穏やかに過ごして頂けるよう又健康管理、状態把握に努め、御家族様との連携も取りつつ安心していただける様にチームワークを図り質の高いケアに取組み、笑顔ある暮らしを支援しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所では、かかりつけ医・専門医への受診介助を行っています。些細な気付きや変化を見逃さず正確な情報を伝えることで、適切な医療が受けられるようにする為です。また、さくら棟の管理者が看護師ということもあり、急変時における迅速な対応も可能となっています。</p> <p>調査当日はかなりの時間を取って、2名の職員から聞き取りを行いました。経験の差こそあれ、自分で考え、先輩職員の対応をつぶさに観察し、判断しかねるところは相談しながら利用者との信頼関係づくりに取り組んでいる様子がかがえました。事業所は、統一したケアを目指しています。職員が育つことでサービスの質の向上が可能になると思います。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の思いを尊重し共に楽しみ、共に分かち合い、心穏やかに生活できるように」と理念を掲げ尊重した望む暮らしの実現を目指す指針。スタッフルームや廊下に掲示し機会を捉えて理念の浸透に努めている。	事業所では4項目から成る基本理念を掲げ、職員ひとりひとりがいつでも振り返り、また初心に戻る事が出来る様にスタッフルームや廊下に理念を掲示し、サービスの質の向上に努めている。	理念の中の一つに統一したケアが謳われており、全ての職員のスキルアップを目指しています。職員の聞き取りからも努力の様子がうかがわれましたが、今一度、組織としての支援の在り方も検討して欲しいと思います。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日頃、入居者との散歩時近隣の方々との挨拶や会話を楽しんでいる。地域の方もホーム内の行事に参加又ボランティアの支援も受けている。さらなる地域との繋がりを深めて行きたい。	近隣の方々との日常の挨拶やボランティアによる太鼓演奏会など、機会を見て地域の方々にも声を掛け、交流に取り組んでいる。	基本理念の一項目にも、地域との結びつきの大切さについて謳われています。運営推進会議等で地域の情報を収集し、身近なところから実践につなげて欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学希望がある際やボランティア慰問の受け入れの際に認知症の人の理解や支援方法等、丁寧に分かり易く説明等行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を行い、町役場、地域包括支援センター、社協、区長、民生委員、御家族様に参加いただき、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議は、さくら棟・かえで棟合同で奇数月の木曜日に開催している。主な内容としては、利用状況や利用者の状態、事業所の取り組み等について報告し、質問やアドバイスまた意見交換を行っている。	会議には区長2名、民生委員2名が出席されています。地域の情報に一番詳しい方々です。この場を利用して、認知症の種類や特徴、またその支援方法等々、事業所の力を生かした取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のとき状況報告、ケアサービスの取り組みを伝えながら、又役場の事業計画にも参加それ以外にも質問、相談報告など行い、その都度連携を取っている。	運営推進会議には、町の担当者も出席しており、利用状況や事業所の取り組み等について詳細な説明を行っている。運営上分からない点や判断に迷う事が発生すれば、その都度指導を仰ぐようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように周知又スタッフがストレスを溜め込まないように月1回のミーティングで発言できる場を設けている。	年に2回は勉強会を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。職員からは「常に意識するようにし、自分が言われたりされたらイヤだと思ふ様なことは決してしないようにしている」という話も聞かれた。	

7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利人権について学び職員へ勉強会などで周知徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業所内で勉強会を行い、制度について学び知識を深めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には御家族様へ充分な説明を行い、理解と同意をされ、サインと捺印を頂いている。内容の変更や報酬改定時には、書面で説明同意を頂いている</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に御意見箱を設置し苦情や不満など出し易いようにしている。また、御家族の面会時に状況報告、会話の時間を設け、何でも言い易いような雰囲気を持っていき、意見が出た場合には速やかに改善にむけ取り組んでいる。</p>	<p>玄関に意見箱の設置や第三者苦情相談窓口のポスターを掲示している。その他家族の面会時を利用して、要望の聞き取りを行ったり、コミュニケーションづくりに取り組んでいる。聞き取りした職員からは、「利用者との信頼関係を築き、良い関係を家族に見てもらおうのが間接的だが良いのではと考えている」と話が聞かれた。</p>	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は職員との会話を大事にして話し易い、雰囲気作りを心がけている。毎月の全体ミーティングで意見、要望を聞く機会を設けている。</p>	<p>管理者は、職員との会話を大事にしており、何でも言える雰囲気作りに取り組んでいる。また、職員からも話し易い、相談し易いという話があった。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務については要望も聞きながら、勤務表の作成勤務状況を把握、相談、面接する時間を設けている。残業や資格取得者には手当を付け、やりがいある職場になるように配慮している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望する研修やスキルアップの研修には積極的にサポートをしている。今年は3名の職員が介護福祉士の資格を取得された。</p>		

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修会に定期的に参加しており、その場において同業者とのお互いの情報交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、生活状況やそれぞれの心境、意思伝達できる方に対しては、希望や要望を聞き、意思伝達できない方に対しては、家族の情報のもと、初期の段階で御利用者に関わる時間をゆっくりと取り、不安の軽減に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安や思いなど十分に傾聴し安心していただける対応を行い、信頼ある関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族の希望を傾聴し、今必要なサービスを見極め必要と思われるサービスの内容を紹介し居宅介護支援専門委員とも連携を取りながら、選択できるように支援している。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々の力を発揮できる、自立支援に努め本人様が意欲的に出来るように支援を行い共に生活する中で入居者に癒されたり、励まされる事もある。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の支援もあり成り立っている事に感謝すると共に面会の際には、状況報告を行い支援方法を説明し、御家族の意向も聞きながら支援、面会時にはゆっくり過ごして頂けるよう場面作りに配慮している。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者の今までの繋がりを継続できるように、情報を収集し関係継続に努めている。親戚、姉妹子供様など日時を合わせて合って頂けるように支援したり、御家族とのふれあいを大切にしている。	基本理念の一項目に家族や地域との結びつきの大切さが謳われている。これまで通い慣れた床屋の利用継続や近所の方の面会、また家族との外出など、今後とも積極的に関係継続の支援を行っていくようである。	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士の馴染みの関係や共に生活される仲間として、日々の生活の中で関係づくりが作り安いの場の設定を行い、職員も加わり中間的な役割を努め孤立されないように配慮している。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院されてもお見舞いに行ったり、契約が終了しても御家族の相談に応じたり、近況をお伺いするなど支援している。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思い等、意思を持って生活される方には日々会話の中で思いを把握し、意思疎通困難な方には表情から推察し、本人本位になるように支援している。	日々の係わりの中で表情や会話の中から思いや意向を推察し、本人本位になるよう支援している。職員からは、うまくコミュニケーションが取れない利用者の場合は、タイミングを見計らったり、また好きな番組を見ている時の表情など日頃細かく観察し、思いや意向の把握に繋げているという話があった。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書、又御家族や本人から聞き取り、情報収集に努めて、全職員で共有しその人らしい生活ができるように心がけている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック日常生活上での本人の表情や心身の状態把握に努め、申し送りでも共通認識を持ち、安全安心に暮らせるように努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当でモニタリングを行い、御家族へ報告し又御家族の意見等を聞き取り、それを反映し課題を把握している。体調の変化や生活の変化がある場合にはカンファレンスを行い介護計画の見直しを行っている。	事業所では、2人の職員が3名の利用者を担当する体制を取っており、毎月モニタリングを行っている。その結果は家族にも報告している。介護計画の作成にあたっては、まず計画作成担当者が試案を作成した上で、面会時や支払い時等を利用して家族との意見交換を行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察等は毎日の支援経過へ記入し、特に変わった事、気づきは日誌へ記入し情報を共有し必要時カンファレンスを行い介護計画の見直しに繋げている。		

28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の要望に応じて柔軟に対応するようにしている。ユニット併設を活かしお互いに行き来し気分転換を図っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々に慰問に来ていただきふれあい、貴重な時間を楽しく過ごせるように支援している。又訪問歯科、訪問理容なども依頼している。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望やこれまでの医師との関係を尊重している。かかりつけ医へ受診介助を行い、Dr指示を仰ぎ連携して、適切な看護、介護に努めている。	事業所では、本人・家族が希望するかかりつけ医との関係を尊重しており、受診介助も行っている。日頃の詳細な状態や医師との連携を深めることで、適切な医療が受けられる様支援している。また管理者自らが看護師でもあり、緊急時の速やかな対応が期待できる。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタルチェックを行い、気づきや変化が見られた時には担当看護師へ報告、医師との連携を図り異常が見られる時は受診介助を行い、昼夜オンコールにて急変時対応体制が出来ている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医や看護師と連携を取り、情報提供している。入院された時にはお見舞いに行き声掛け、不安の軽減に努め、病院関係者とも連携を図り早期退院に向け支援している。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時看取り指針について説明している。重度化された場合に、段階に応じて御家族と話し合い、医療依存度が高くなった場合、ホームで出来る事を説明し方針を共有して御本人、御家族との関係を大切にしながら支援している。	入居契約時に看取り方針についても説明を行っている。これまでに一例の看取り実績があり、その経験からもかかりつけ医との連携強化がとても大事であると考えている。医療依存度が高くなった場合、事業所として出来ることを説明し、出来るだけ意向に沿う方針ということである。	最近の調査では、看取りに立ち会った職員の8割が何らかの悩みを訴えている等の報告もあります。看取りケアの重要性が指摘される中、どのような準備が出来るのか、再度検討をお願いします。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会において、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っているが日常的に、各勤務帯の事例をイメージトレーニングするなど、常に事故や急変を意識するように訓練する必要がある。		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、非難訓練マニュアルを作成し、年2回の消防訓練を実地しており内1回は夜間を想定し消防署立会いの下、訓練をしている。近隣の住民にも参加の呼びかけを行い地域との連携に取り組んでいる。	年に2回実施しており、そのうち1回は夜間を想定し消防署立会いのもと行っている。訓練にはすぐ隣の民生委員や区長の参加もお願いしている。また非常時の備えとして、飲料水、カップめん、缶詰、コンロ等を行っており、大体3日分となっている。	こここのところ想定外の災害が多発しているように思われます。職員の話でも「こういうことは起こらないだろうと予断を持たないようにしている」という話がありました。日頃の訓練の重要性を再認識し、地域の協力体制づくりに更に取り組んで欲しいと思います。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者一人ひとりの人格を尊重し、これまでの人生の歩みや御家族の思いを考え、礼節と尊厳を持って言葉をかけたり対応するように心がけている。特に入浴や排泄時には羞恥心に充分配慮。個人情報取り扱いについては説明、同意又ホーム内にも掲示している。	人生の先輩としての尊敬、また家族の思い等も考慮し、失礼のない言葉使いや誠実な態度での対応を心掛けている。特に入浴や排せつ時の支援では、羞恥心に充分配慮し、プライドを傷つけない様取り組んでいる。その他、催し等では利用者が孤立することがない様、目配り気配りを怠らないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にゆったりと向き合う時間を大切に、同じ目線で話したり、場面を通して御本人の意向や思いをくみ取る様に努め、急がせず自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者の一人ひとりの意思を尊重し、その時々その思いを確認しながら、ご自分のペースで生活できるように心がけている得意な事や関心のある事を十分に把握し、やりたくなるような場面作りを行なっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服など御本人の意向を確認し、職員と一緒に、御自身で選択できる人には本人に任せおしゃれを楽しんで頂いている。散髪は月1回訪問理容を受けられるように支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農園でとれた旬の野菜を分けて頂いたり、豆の筋取りや芋の皮むきなど、下ごしらえや調理、味見やかたづけなど、利用者の能力に応じて楽しみながらできるように支援している。	法人では米や野菜の減農薬栽培を行っており、そこで収穫した新鮮野菜を利用した食事の提供を行っている。調理は職員が担当しており、豆の筋取りやイモの皮むき等、出来ることは利用者にも手伝いをお願いしている。食事形態は、利用者の能力に合わせたものとなっており、介助が必要な方は1名となっている。また、食事前には嚥下体操等を行い、美味しく食べられるよう支援している。		

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作成、その方の嚥下能力に合わせた食事形態を提供食事摂取量、水分量なども記録して把握し、体重増減にも注意を払っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方の能力に応じ歯ブラシ、舌ブラシ、口腔スポンジを使用し、口腔ケアの支援を行い、義歯も毎日消毒管理を行い清潔保持に努めている。必要時訪問歯科診療の支援も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、間隔をみて声掛け誘導で失敗無く、トイレでの排泄を支援している。又オムツ減量に努めている。	ひとりひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間おむつ利用の方でも昼間はリハビリパンツを利用し、トイレでの排泄を支援することで、おむつ使用枚数の削減に努めている。職員からは「誘導の際の声掛けの工夫や介助の際のプライバシーの保護には、特に配慮している」という意見が聞けた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を把握し排便の確認も行い便秘時に腹部マッサージや飲み物、食物の工夫、食後のトイレ誘導などケアの面から予防や対応を行っている。状況に応じて内服薬でのコントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	御本人の意向に沿って午前中や午後からの入浴が出来る様に対応している。拒否に対しては無理強いせず翌日に支援、清拭、更衣等で対応。季節ごとにゆず風呂、しょうぶ湯、入浴剤で楽しんで頂いている。	個人浴となっており、回数的には週に2～3回を予定している。お湯については皮膚疾患等があらわれる方の場合入れ替えているが、一般的にはかけ流しの状態での対応となっている。職員からは「注意点として、寒くないか、熱くないか、滑らないか、湯加減はどうか等確認の上、足からかけるようにしている」という話が聞かれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を取り入れて夜間の安眠、良眠に心がけている。日々その時の状況を観察し希望があれば休息を取っていただくように支援している。又ゆっくり休めるよう、寝具調整と室温調整している。		



47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各個人の処方箋、ファイルがあり職員が閲覧、把握できるようにしており、服薬は3度の確認を行い、誤薬がないように注意している。服薬後状態把握に努め内服薬の調整に状況報告を行なうなど看護師が主治医との連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>御本人や御家族から情報生活歴を下に嗜好や趣味などを把握し能力に応じて、洗濯物干しや洗濯物たたみ、お膳拭きやお茶碗洗いなど充実感や達成感、笑顔を引き出せるよう努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望に沿って外気浴を支援している。買物外出やお花見ドライブなど御家族にも協力をして頂き、戸外に出かけられるように支援している。</p>	<p>事業所では、ひとりひとりの希望に添った外気浴支援に力を入れており、外に出る機会を増やすためにプランターで野菜づくりを行っている。その他、家族の協力で買い物に出掛けたり、中には月に数回出掛けられる方もおられるようである。</p>	<p>事業所は、とても環境に恵まれた場所にありま す。この環境を生かして、特に希望の少ない利用者の外出支援（日光浴等含め）に取り組んで欲しいと思います。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御家族と相談しながら、本人管理できる方は所持していただき、出来ない方は、職員管理の下、希望の品があれば職員と一緒に出かけ買物するなど支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>御利用者の希望に応じて電話したり、御家族から贈り物や手紙、電話が多くありその都度返信し、御家族との絆を大切に支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースのリビングや廊下はゆったりとしたスペースで台所での調理の匂いや片付けの際の音など生活感を感じ、ゆっくり過ごす事ができる。</p>	<p>天井には明り取りが設置され、事業所内はどこも一応に明るく、穏やかな雰囲気であった。手摺りや取っ手などは日常的に消毒しているとのことで、トイレも含めて異臭等は全くないようである。これから乾燥する冬場には、次亜塩素噴霧除菌装置を設置し、より一層室内環境の整備に取り組むようである。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでは、お一人おひとりの居場所があり、同じ環境で落ち着いて安心して過ごされている。又、居室でゆっくり過ごして頂いたり、好きな場所で自由に過ごして頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまでの暮らしを大切に、入居時できるだけ、馴染みのある家具を置いたり、写真を飾ったり、不安なく過ごして頂けるように、御家族と相談しながら、安全な居室作りに取り組んでいる。</p>	<p>居室の基本的な設備は、ベッド、空調機器、カーテン、コルクボードとなっている。コルクボードには、写真や絵等を簡単に留めることが出来、居心地の良い部屋づくりが出来るようになっている。その他、チェストや調度品等は、使い慣れた物を持ち込む事が出来る。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレには手すりを設置してバリアフリーとなっている。居室には手作りの表示をし、分かり易く、混乱が少なくなるような工夫を行い支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない